

慢性疾患診療部

Rehabilitation of Chronic Diseases

人事異動は、6月に助手の矢野健一が移動し、後任として小柳雅孔が助手として赴任した。部長は西村純二、主任は藤野喜久命マッサージ師、西山保弘理学療法士、工藤義弘理学療法士、和田とも子理学療法士、岡田玉樹マッサージ師で構成されている。

この一年間の研究活動は、西山保弘が生体防御機構の痛み系の系統発生的メカニズムから慢性関節リウマチの炎症性関節の疼痛とその変形形成のメカニズムにおける筋スパズムの役割についての研究および治療方法論の検討を継続して行った。また、その治療的方法論に新しい徒手的治疗法「痛覚系末梢受容器刺激法」を提唱した。さらにリハビリテーションの新しい日常生活活動評価法として加速度計を用いた機器（アクティブトレーサー）を使用し、医療情報室佐藤義則の協力を得てバイナリーデータ処理用プログラム開発を行った。その評価法の信頼性について研究発表した。

近年注目されている生活習慣病の理学療法の位置付けを臨床免疫学部門の生山祥一郎助教授の指導を受け、その総説を工藤義弘が発表した。

物理療法分野での基礎的研究として、2年目の和田とも子と西山保弘が中周波刺激が生体に与える影響について研究を開始した。特に慢性炎症性関節に対する中周波刺激の効果について発表した。

大分県内で唯一コメディカル職種主体の慢性関節リウマチのリハビリテーションや看護、ケアを検討する大分リウマチケア研究会の事務局を受け発足させた。その第一回研究会を主催し110名の参加者のもと成功裡に終了した。

業績目録

原著論文

1. 西山保弘 2001年
RAの軟部組織の徒手療法 - 膝に対する痛覚系末梢受容器刺激法の紹介 -
日本RAのリハビリ研究会誌 15, 4-18
2. 和田とも子, 西山保弘
慢性炎症性関節に対する中周波刺激装置の臨床効果の検討
日本RAのリハビリ研究会誌 15, 64-66

総説

1. 工藤義弘, 生山祥一郎 2001年
生活習慣病予防に対する理学療法の効果とその限界
理学療法, 18, 1, 174-181

学会発表

1. 西山保弘, 佐藤義則, 和田とも子 2000年5月19日
慢性関節リウマチに対する加速度センサーを用いた身体活動性評価 - 第2報 -
第35回日本理学療法学会大会, 鹿児島

研究会

1. 和田とも子, 西山保弘 2000年11月19日
慢性炎症性関節に対する中周波刺激装置の臨床効果の検討
第15回日本RAのリハビリ研究会 東京

講演

1. 西山保弘 2000年11月19日
RAの軟部組織への徒手療法
第15回日本RAのリハビリ研究会 東京
第1回大分リウマチケア研究会主催